

平成30年度

家庭教育支援施策の実施状況について

令和元年9月  
群馬県

## はじめに

家庭教育は全ての教育の出発点であり、子どもの基本的な生活習慣や豊かな情操、善悪の判断など基本的倫理観や自立心などを身に付ける上で、重要な役割を担うものである。

しかしながら、少子化や核家族化、価値観の多様化、経済状況の変化等により、現代は「家庭教育を行うことが困難な社会」と言われている。

そのような中、本県では、平成27年度の県議会「家庭教育の支援・こどもの未来に関する特別委員会」における審議を踏まえ、「ぐんまの家庭教育応援条例」（以下、条例）が制定され、平成28年4月1日に施行された。

本書は、条例第18条の規定に基づき、平成30年度における家庭教育を支援するための施策の実施状況について取りまとめたものである。

条例施行3年目となる平成30年度は、引き続き庁内の各部局が横断的に家庭教育支援に取り組み、前年度を上回る延べ53の施策を実施した。

具体的な施策としては、すべての親に対する家庭教育支援として、「ぐんまの親の学びプログラム」を活用した保護者同士のつながりづくりのための講座「ワクワク子育てトークング」を県内各地の学校や公民館等で実施したほか、良好な親子関係を作るためのコミュニケーションを学ぶ子育て講座「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」の開催や説明動画の制作・公開などにより、親としての学びの支援の取組が進んだ。

また、家庭教育支援の人材養成においては、「ワクワク子育てトークング」の進行役であるファシリテーターや、「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」の指導者であるトレーナーの養成講座、子どもの居場所づくり関係者を対象とした研修などの実施により、家庭教育や子育てを支援する人材養成が進むとともに、その方たちの地域における活躍の場が広がっている。

さらに、学校、地域住民、地域団体、行政等の関係者の連携の促進については、「ぐんまの家庭教育応援フォーラム」や「地区別家庭教育支援連携会議」などを開催し、家庭を取り巻く現状や社会全体で家庭を支えていくことの重要性について、関係者相互に共通理解を図る取組を進めた。

今後も、地域における家庭教育支援の核となる人材の養成・活用や家庭を取り巻く関係者の連携を促進し、子どもたちの健やかな成長を社会総掛かりで支援する機運を高めることを目指していく。

# 家庭教育支援施策の実施状況一覧

凡例：【新規】 新規に追加した施策

【継承】 平成29年度の施策を引き継いで実施した施策

## 1 親としての学びの支援（第11条関係） 9 施策

- ①ぐんまの子どものためのルールブック50（(教)総務課）
- ②ワクワク子育てトークン普及・実践（生涯学習課）
- ③職場内家庭教育研修会（生涯学習課）
- ④親子体験活動（生涯学習課（青少年自然の家））
- ⑤ぐんまいきいきチャレンジ（生涯学習課（青少年自然の家））
- ⑥保育アドバイザーの派遣（総合教育センター）
- ⑦男性のワークライフバランスセミナー（県民生活課）
- ⑧子育て講座（ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング）出前なんでも講座等  
（児童福祉課）
- ⑨ぐんまオリジナル食育教材普及（保健予防課）

## 2 親になるための学びの支援（第12条関係） 7 施策

- ⑩ワクワク子育てトークン普及・実践（生涯学習課）【再掲】
- ⑪保育アドバイザーの派遣（総合教育センター）【再掲】
- ⑫ライフプランニング・キャリア形成推進事業（こども政策課）
- ⑬【継承】ぐんま子育て応援メッセージ大賞（こども政策課）
- ⑭「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール（子育て・青少年課）
- ⑮思春期保健対策（児童福祉課）
- ⑯若い世代食育推進協議会（保健予防課）

## 3 人材養成等（第13条関係） 11 施策

- ⑰ぐんま幼児教育プラン（義務教育課）
- ⑱地区別PTA指導者研修会（生涯学習課（各教育事務所））
- ⑲子育ての支援者研修会（総合教育センター）
- ⑳家庭教育支援者養成講座（生涯学習センター）
- ㉑ワクワク子育てトークンファシリテーター養成講座（生涯学習センター）
- ㉒家庭教育支援幼児安全セミナー（生涯学習センター）
- ㉓【継承】子どもの居場所づくり人材養成研修事業（子育て・青少年課）
- ㉔母子保健教育研修（児童福祉課）
- ㉕虐待予防のための子育て人材育成支援（児童福祉課）
- ㉖子育て講座（ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング）トレーナー養成講座  
（児童福祉課）
- ㉗イクボス養成塾（労働政策課）

4 連携した活動の促進（第14条関係） 10施策

- ⑳ぐんまの家庭教育応援フォーラム（生涯学習課（生涯学習センター））
- ㉑地区別家庭教育支援連携会議（生涯学習課（各教育事務所））
- ㉒【新規】地区別家庭教育支援連携モデル事業（生涯学習課（各教育事務所））
- ㉓家庭教育支援担当者等研修会（生涯学習課）
- ㉔学校・家庭・地域連携協力推進事業（国庫補助事業）（生涯学習課）
- ㉕家庭教育支援チームの支援（生涯学習課）
- ㉖放課後児童クラブ（子育て・青少年課）
- ㉗【新規】ぐんま子どもの居場所づくり応援県域協議会（子育て・青少年課）
- ㉘地域食育推進連携促進事業（保健予防課）
- ㉙群馬県いきいきGカンパニー認証制度（労働政策課）

5 相談体制の充実等（第15条関係） 8施策

- ㉚児童生徒の心のケアシステム推進（義務教育課）
- ㉛【新規】学びと家庭のサポート（義務教育課）
- ㉜青少年自立・再学習支援事業（生涯学習課）
- ㉝学びを通じたステップアップ支援促進事業（生涯学習課）
- ㉞子ども教育・子育て相談（総合教育センター）
- ㉟家庭教育電話相談「よい子のダイヤル」（生涯学習センター）
- ㊱こどもホットライン24（児童福祉課）
- ㊲女性の健康支援事業（児童福祉課）

6 広報及び啓発（第16条関係） 8施策

- ㊳ぐんまの子どものためのルールブック50（（教）総務課）【再掲】
- ㊴ぐんまの家庭教育応援条例普及啓発（生涯学習課）
- ㊵県教育番組制作放送（生涯学習課）
- ㊶家庭教育支援普及・啓発リーフレット作成（生涯学習課）
- ㊷群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」  
（こども政策課）
- ㊸【継承】ぐんま子育て応援メッセージ大賞（こども政策課）【再掲】
- ㊹「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール（子育て・青少年課）  
【再掲】
- ㊺ぐんま子育て応援サイト「子育てネット」（子育て・青少年課）

（5部局11所属53施策）

# 1 親としての学びの支援<第11条関係>

県の役割	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県は、親としての学びを支援するための方法の情報収集、研究及び普及を図る。</li> <li>県は、親としての学びの学習機会を提供するとともに、関係者の取組を支援する。</li> </ul>	
主な実施内容	課題と今後の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ぐんまの親の学びプログラム」を活用した講座を「ワクワク子育てトークン」 として、県内の学校、公民館等で88回実施し、参加者は3,500人を超えた。</li> <li>子育て講座（「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」）を保護者等向けに実施するとともに、動画を制作・公開した。</li> <li>幼稚園等に保育アドバイザーを104件派遣し、研修の参加者は4,700人を超えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての親の学びを支援していくために、進行役であるファシリテーターを養成し、「ワクワク子育てトークン」の実施をさらに推進する。</li> <li>今後も子育て世代の親に対する切れ目のない支援を目指し、関係部局間で連携しながら、それぞれの事業を継続していく。</li> </ul>

事業名	①ぐんまの子どものためのルールブック50
担当所属	教育委員会 総務課
決算見込額	1,465千円

## <事業概要>

公共心や思いやりを育むために、子どもが具体的に実行できるルールを50にまとめ、家庭・地域・学校での活用を促進する。

## <実施状況>

新入学児童等に、16,945部配付。

事業名	②ワクワク子育てトークン普及・実践
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	156千円

## <事業概要>

親子の関わり方や親としての心構えなどの気づきや親同士のつながりづくりのためのツールである「ぐんまの親の学びプログラム」を活用した講座を、「ワクワク子育てトークン」として実施し、幅広く普及・実践をする。

## <実施状況>

	実施回数(回)	参加者数(人)
(1)保護者向け	75	3,228
(2)中学生向け	0	0
(3)高校生向け	1	4
(4)大学生向け	3	100
(5)行政関係者向け	9	173
合計	88	3,505

※太枠内は「親としての学びの支援」対象者

事業名	③職場内家庭教育研修会
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	10千円

<事業概要>

群馬県いきいきGカンパニー認証企業に対し、職場内家庭教育研修会の講師を派遣し、企業等における家庭教育支援の取組を促進する。

<実施状況>

- (1)開催回数 1回（2月18日開催（株）ジェイ・エヌ・エス  
「育児休暇明けの女性の職場復帰と、その後の働き方について」）
- (2)参加者数 23人

事業名	④親子体験活動
担当所属	教育委員会 生涯学習課（青少年自然の家）
決算見込額	551千円

<事業概要>

自然体験や生活体験等様々な体験活動を通して、子どもたちの感受性や自主性、社会性をはぐくむとともに、親子での協働作業や共通体験により、親子の「きずな」を深める。

<実施状況>

- (1)開催回数 全11回開催
- (2)参加者数 延べ462人

事業名	⑤ぐんまいいきいきチャレンジ
担当所属	教育委員会 生涯学習課（青少年自然の家）
決算見込額	161千円

<事業概要>

様々な要因により社会とうまく関われない青少年に、自然体験や生活文化体験等の様々な機会を提供し、忍耐力や協調性、社会性を育み、青少年の自立を支援する。

参加した青少年の保護者に対し、交流会や情報交換の場を設けるとともに、必要に応じてカウンセリング等による心のケアを行い、家庭の教育力の向上を図る。

<実施状況>

- (1)開催回数 全17回開催
- (2)参加者数 延べ680人

事業名	⑥保育アドバイザーの派遣
担当所属	教育委員会 総合教育センター
決算見込額	336千円

<事業概要>

幼稚園・保育所等からの要請に応じて、保育アドバイザーが出向いて保育者等に向けて研修を実施する。

<実施状況>

	派遣回数(回)	参加者数(人)
(1)保護者向け研修会	51	3,159
(2)教職員向け研修会	42	1,323
(3)子育て支援員向け	10	257
(4)児童・生徒向け	1	29
合計	104	4,768

事業名	⑦男性のワークライフバランスセミナー
担当所属	生活文化スポーツ部 県民生活課 人権男女共同参画室
決算見込額	72千円

<事業概要>

「仕事と家庭の両立」・「仕事と介護の両立」をテーマに、これからの男性の育児参加・家事参加・介護について考え、学ぶことを目的としたセミナーの開催。

<実施状況>

(1)第1回 6月17日開催(介護)

神山 智子 氏(県地域包括ケア推進室認知症専門官)

「介護離職を考える前に知っておきたいこと～家族が認知症かな?と思ったときに～」

参加者数 13人

(2)第2回 2月16日開催(家庭参画)

吉田 大樹 氏(NPO法人グリーンパパプロジェクト代表)

「ミニ講演会と親子バルーンアート教室」

参加者数 22組51人(父子での参加)

事業名	⑧子育て講座（ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング）出前なんでも講座等
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	2,469千円

<事業概要>

良好な親子関係を築き、保護者の子育てによるストレスを軽減し、児童虐待の未然防止を図るための子育て講座（「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」）の保護者等向けの出前なんでも講座を実施する。また、子育て講座の普及を図るため、動画を制作・公開する。

<実施状況>

- (1) 出前なんでも講座等 開催：16回、参加者：547人
- (2) 「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」の動画を制作。

事業名	⑨ぐんまオリジナル食育教材普及
担当所属	健康福祉部 保健予防課
決算見込額	768千円

<事業概要>

多くの県民に食育を実践してもらうために、家庭、教育機関、職域、地域等で、楽しく簡単に実践できる食育教材の普及を図る。

<実施状況>

- (1) 本県オリジナル食育教材の無料貸し出し。
- (2) 「ぐんまちゃんと学ぶ食育カルタ」（販売用）を作成し、県民センター、各行政県税事務所、ぐんまちゃん家、イオン高崎店で販売。

<参考：各施策にかかわる指標等>

計画名	施策名	指標	数値（達成時期）	H30実績	
ぐんま子育て・若者サポートビジョン2016	①ぐんまの子どものためのルールブック50 (⑩再掲)	困っている人を見たら進んで助けている小・中学生の割合	小6：100% 中3：100% (H31)	小6：87.4% 中3：85.9%	
		毎朝同じくらいの時刻に起きている小・中学生の割合	小6：100% 中3：100% (H31)	小6：90.1% 中3：91.0%	
		②ワクワク子育てトークン普及・実践(⑩再掲)	作成プログラム数(累計)	20プログラム (H29)	累計29プログラム (H30 07プログラム)
		③職場内家庭教育研修会	研修会実施回数(累計)	15回 (H31)	累計4回 (H30 1回)
第2期群馬県教育振興基本計画	④親子体験活動	「自然体験活動」「社会体験活動」に係る事業への参加者数	2,800人 (H30)	3,474人 (内、④については462人)	
群馬県食育推進計画(第3次)ぐんま子育て・若者サポートビジョン2016	⑨ぐんまオリジナル食育教材普及	本県のオリジナル食育教材の種類	10種類 (H31)	11種類	



## 2 親になるための学びの支援<第12条関係>

県の役割	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県は、親になるための学びを支援するための方法の情報収集、研究及び普及を図る。</li> <li>県は、親になるための学びの学習機会を提供するとともに、関係者の取組を支援する。</li> </ul>	
主な実施内容	課題と今後の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>これから親となる世代である高校生及び大学生を対象に「ワクワク子育てトークン」を実施した。</li> <li>ライフデザインセミナーや若い世代食育推進など、これから親になる若者を対象とした各種講座を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これから親となる世代を対象とした「ワクワク子育てトークン」の実施を推進するとともに、大学等と連携し親になるための学びを支援する。</li> <li>ライフデザインに関わる事業において、親としての心構えを学ぶ機会をさらに充実させる。</li> </ul>

事業名	⑩ワクワク子育てトークン普及・実践 【再掲】
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	156千円

### <事業概要>

親子の関わり方や親としての心構えなどの気づきや親同士のつながりづくりのためのツールである「ぐんまの親の学びプログラム」を活用した講座を、「ワクワク子育てトークン」として実施し、幅広く普及・実践をする。

### <実施状況>

	実施回数(回)	参加者数(人)
(1)保護者向け	75	3,228
(2)中学生向け	0	0
(3)高校生向け	1	4
(4)大学生向け	3	100
(5)行政関係者向け	9	173
合計	88	3,505

※太枠内は「親になるための学びの支援」対象者

事業名	⑪保育アドバイザーの派遣 【再掲】
担当所属	教育委員会 総合教育センター
決算見込額	336千円

<事業概要>

幼稚園・保育所等からの要請に応じて、保育アドバイザーが出向いて保育者等に向けて研修を実施する。

<実施状況>

	派遣回数(回)	参加者数(人)
(1)保護者向け研修会	51	3,159
(2)教職員向け研修会	42	1,323
(3)子育て支援員向け	10	257
(4)児童・生徒向け	1	29
合計	104	4,768

事業名	⑫ライフプランニング・キャリア形成推進事業
担当所属	こども未来部 こども政策課
決算見込額	0千円

<事業概要>

大学生や20代の若年社会人を対象に、県内の各大学や企業において、「人口減少問題」や「少子化」についての現状や今後の見通しを学びつつ、就職や結婚・子育てなどの自らの人生設計を考えるセミナーを「出前なんでも講座」として実施する。

<実施状況>

- (1)開催回数 3回(大学生・新社会人向けライフデザインセミナー)  
(2)参加者数 77人

事業名	⑬【継承】ぐんま子育て応援メッセージ大賞
担当所属	こども未来部 こども政策課
決算見込額	859千円

<事業概要>

小学生以上の子ども及び大人・企業等を対象として、子育てを頑張る人に向けた感謝やねぎらいの気持ちを込めたショートメッセージを募集するコンクールを実施する。

<実施状況>

- (1)応募作品数 「いつもありがとう」の部(子ども対象)2,160点、「一緒がんばろう」の部(大人・企業等対象)58点。  
(2)入賞作品18点を選出し、県ホームページ等で公表したほか、新しく作成したぐーちよきパスポートとともにメッセージカードとして県内の子育て家庭に配布。

事業名	⑭「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール
担当所属	こども未来部 子育て・青少年課
決算見込額	245千円

<事業概要>

毎月第1土曜日を「少年の日」、第1日曜日を「家庭の日」と定め、青少年の健全育成のための県民運動を推進する。

<実施状況>

- (1) 絵画・ポスターの部と標語の部の募集をし、絵画・ポスターの部 1,920点、標語の部 11,222点の計 13,142点の応募があった。
- (2) 12月18日～25日まで県庁県民ホール1階南側で作品展示を行い、「少年の日」「家庭の日」の普及啓発を行った。

事業名	⑮思春期保健対策
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	4,000千円

<事業概要>

助産師が子どもや保護者に対して命の成り立ちと尊厳等を語ることで、自らの命の大切さと生きるということの意味を認識し、虐待防止の視点から予期しない妊娠を防ぐための性に対する正しい知識を学び、自分のライフプランを考えて将来の行動を選択できるように、講座を実施する。

<実施状況>

- (1) 小学校 56校 6,243人受講
- (2) 中学校・高校・特別支援学校 24校 6,342人受講

事業名	⑯若い世代食育推進協議会
担当所属	健康福祉部 保健予防課
決算見込額	196千円

<事業概要>

若い世代に関わる関係機関等が協働・連携し、若い世代に対する食育推進について検討・協議をする。

<実施状況>

【協議会】

- (1) 開催回数 1回（12月26日）
- (2) 参加者数 計20人（県内大学の教員及び大学生）

【すき焼き調理講習会】

- (1) 開催回数 4回（東洋大学、桐生大学、東日本栄養医薬専門学校、群馬大学）
- (2) 参加者数 延べ92人

【すき焼きお料理教室】 (1) 開催回数 1回、(2) 参加者 16人

〈参考：各施策にかかわる指標等〉

計画名	施策名	指標	数値(達成時期)	H30実績
ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016 第2期群馬県教育振興基本計画	⑭「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール (㊟再掲)	絵画・ポスター、標語応募数	絵画・ポスター 3,000点以上 標語 11,000点以上 (H31)	絵画・ポスターの部 1,920点 標語の部 11,222点
ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016	⑮思春期保健対策	生命を育む講座の開催	年70校 (H31)	80校
群馬県食育推進計画(第3次) ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016	⑯若い世代食育推進協議会	若い世代食育推進協議会の開催	年2回 (H31)	6回

### 3 人材養成等<第13条関係>

県の役割	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県は、大学等と連携し、家庭教育支援の人材養成、資質向上に努めるとともに、関係者相互の連携を推進する。</li> </ul>	
主な実施内容	課題と今後の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育支援者養成講座を実施し、地域において家庭教育支援の核となる人材を養成した。</li> <li>ワクワク子育てトークンファシリテーター養成講座を実施し、各地域においてファシリテーターとして活躍できる人材を養成するとともに、ファシリテーターとして活動する機会を提供した。</li> <li>子育て支援関係者、子どもの居場所づくり関係者の資質向上のための研修を各部局において実施した。</li> <li>子育て講座（「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」）を指導するトレーナーを養成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も地域における家庭教育支援の核となる人材を養成し、個別のケースに対応する家庭教育支援チームの結成を働きかけていく。</li> <li>「ワクワク子育てトークン」をより多くの機会に実施できるように、ファシリテーターを養成するとともに、実際にファシリテーターとして活動する機会を提供する。</li> <li>子育て及び子どもの居場所づくりに関する人材育成の事業を今後も継続して実施していく。</li> </ul>

事業名	⑰ぐんま幼児教育プラン
担当所属	教育委員会 義務教育課
決算見込額	996千円

#### <事業概要>

子ども・子育て支援新制度の施行や新幼稚園教育要領等の実施を踏まえ、群馬の幼児教育を推進していくための新たな指導資料「就学前のぐんまの子ども はぐくみプラン」を作成する。

#### <実施状況>

##### (1)開催日

推進会議（2回）

5月14日、11月8日

ワーキンググループ会議（4回）

5月18日、7月30日、9月19日、11月22日

##### (2)配布先及び配布部数

- ・国公立の保育所、認定こども園、幼稚園（各園所7冊）
- ・小学校（各校3冊）

事業名	⑱地区別PTA指導者研修会
担当所属	教育委員会 生涯学習課（各教育事務所）
決算見込額	394千円

<事業概要>

地域におけるPTA活動を振興するため、単位PTAの新役員を主な対象として、PTA活動のあり方や青少年の健全育成を図るための地域活動のあり方等についての研修を各教育事務所毎に実施する。

<実施状況>

- (1)開催日 中部6月23日、西部6月30日、吾妻6月16日、利根6月2日、東部6月16日  
(2)参加者数 808人（各教育事務所の合計数）

事業名	⑲子育ての支援者研修会
担当所属	教育委員会 総合教育センター
決算見込額	67千円

<事業概要>

子育ての支援者のスキルアップ及び子育ての支援者同士の交流による広域的ネットワークの構築を図るための研修会を平成25年度から群馬県総合教育センターが主催し、地域に出向いて実施している。

<実施状況>

- (1)開催日 基礎研修 7月5日  
テーマ別研修 7月10日、8月31日、9月3日・11日・18日  
11月13日・20日  
(2)参加者数 286人

事業名	⑳家庭教育支援者養成講座
担当所属	教育委員会 生涯学習センター
決算見込額	337千円

<事業概要>

地域で家庭教育支援の取組を広げるため、家庭教育支援の概要や実践のための知識・技能の習得にかかる研修を行い、家庭教育支援の核となる人材を養成する。

<実施状況>

- (1)開催日 8月30日、9月20日、9月27日、10月11日、2月9日  
(2)講座修了者 23人

事業名	㉑ ワクわく子育てトークンファシリテーター養成講座
担当所属	教育委員会 生涯学習センター
決算見込額	62千円

<事業概要>

親の学びプログラムのファシリテーター（進行役）としての知識や技能等について研修を行い、各地域においてファシリテーターとして活躍できる人材を養成する。

<実施状況>

- (1)開催日 6月23日、6月20日
- (2)講座修了者 56人

事業名	㉒ 家庭教育支援幼児安全セミナー
担当所属	教育委員会 生涯学習センター
決算見込額	0千円

<事業概要>

子育て支援に係る関係者が、幼児等対象のボランティア活動を行う際、特に緊急時の対応の基本的知識や技術を体得する。

<実施状況>

- (1)開催日 6月23日
- (2)参加者数 49人

事業名	㉓ 【継承】子どもの居場所づくり人材養成研修事業
担当所属	こども未来部 子育て・青少年課
決算見込額	2,533千円

<事業概要>

子どもの居場所を含めた地域ネットワーク形成に向け、子どもの居場所への関わり方別に対象者を設定し、啓発セミナーや各研修を開催する。

<実施状況>

- (1)参加者数 約280人

事業名	㉔母子保健教育研修
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	323千円

<事業概要>

母子保健に関する各種研修会等を通じて関係者の知識等の向上を図る。

<実施状況>

(1) 3歳児健康診査の眼科・検尿に関する研修会

①開催日 2月27日

②参加者 49人

(2) 母子保健推進員等研修会

①開催日 10月11日

②参加者 298人 他、保健福祉事務所で開催。

(3) 母子保健指導者研修会

①開催日 11月14日

②参加者 146人

事業名	㉕虐待予防のための子育て人材育成支援
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	1,236千円

<事業概要>

児童虐待の予防、早期発見・早期対応のため、児童相談所職員や市町村の要保護児童対策地域協議会の調整担当者等の子育て支援関係者に対する研修等を行う。

<実施状況>

(1) 児童福祉司任用前講習会兼児童福祉司任用資格認定等研修

①開催日 6月1日～7月6日までの計5日間

②修了者数 21人

(2) 児童福祉司任用後研修

①開催日 10月26日～2月6日までの計5回

②修了者数 13人

(3) 要保護児童対策調整機関の調整担当者研修

①開催日 10月19日～2月18日までの計5回

②修了者数 19人

事業名	㉖子育て講座（ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング）トレーナー養成講座
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	337千円



<事業概要>

良好な親子関係を築き、保護者の子育てによるストレスを軽減し、児童虐待の未然防止を図るための子育て講座（「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング」）を指導するトレーナーを養成する。

<実施状況>

- (1)開催日 第1回 7月20日、7月27日  
 第2回 9月7日、9月14日  
 第3回 11月26日、12月3日  
 追加講座 12月7日、12月14日
- (2)修了者数 71人

事業名	㊸イクボス養成塾
担当所属	産業経済部 労働政策課
決算見込額	469千円

<事業概要>

従業員や部下のワーク・ライフ・バランスに配慮できる上司、イクボスを養成するためイクボス養成塾を開催し、男女ともに仕事と家庭を両立しながら、働きやすい職場環境の整備を推進する。

<実施状況>

- (1)開催回数 3回

【第1回 ワークショップ型】

- ①日程：8月1日  
 ②会場：高崎市産業創造館  
 ③講師：安藤 哲也 氏（NPO法人ファザーリング・ジャパン 代表理事）  
 ④内容：ワーク・ライフ・バランスに関するミニ講演、事例検討、イクボス宣言

【第2回 ワークショップ型】

- ①日程：9月10日  
 ②会場：館林市文化会館 3号室  
 ③事例発表：マルエス合資会社（邑楽町/倉庫業） 代表社員 小島 雅典 氏  
 ④講師：稲久 泰弘 氏  
 （株）リクルートキャリアコンサルティングコンサルタント  
 ⑤内容：「定着率向上における管理職の役割」に関する講義及びワークショップ、イクボス宣言

【第3回 ワークショップ型】

- ①日程：10月12日  
 ②会場：前橋商工会議所 3階「アイビー」  
 ③事例発表：（株）リネイル（前橋市/情報通信業） 常務取締役 前原 克好 氏  
 ④講師：稲久 泰弘 氏  
 （株）リクルートキャリアコンサルティングコンサルタント  
 ⑤内容：「定着率向上における管理職の役割」に関する講義及びワークショップ、イクボス宣言

- (2)参加者数 第1回 20人  
 第2回 16人  
 第3回 28人

〈参考：各施策にかかわる指標等〉

計画名	施策名	指標	数値(達成時期)	H30実績
ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016	⑰ぐんま幼児教育プラン	幼児教育推進のための指導資料活用割合	公立 100% (H30)	公立 92.9%
第2期群馬県教育振興基本計画	⑱地区別PTA指導者研修会	研修会への参加者数	1,400人 (H30)	808人
第2期群馬県教育振興基本計画	⑲子育ての支援者研修会	研修会への参加者数	150人 (H30)	286人
第2期群馬県教育振興基本計画	⑳家庭教育支援者養成講座 (家庭教育カウンセリング専門講座 名称変更)	講座修了者の計画推進期間中の累計数	300人 (H26~30)	累計182人 (H30 23人)
群馬県産業振興基本計画 ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016	㉑イクボス養成塾	管理的職業従事者に占める女性の割合	15% (H31)	調査なし

## 4 連携した活動の促進<第14条関係>

県の役割	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県は、保護者をはじめ、学校等、地域住民、地域活動団体、事業者等の関係者が相互に連携して取り組む家庭教育を支援するための活動の促進を図る。</li> </ul>	
主な実施内容	課題と今後の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度に実施した「ぐんまの家庭教育応援キックオフ・ミーティング」を継承し、学校関係者、青少年育成団体、地域活動団体、事業所関係団体等の関係者による「ぐんまの家庭教育応援フォーラム」を実施した。</li> <li>学校、地域住民、地域団体、行政等が相互に連携するための地区別家庭教育支援連携会議及び連携モデル事業（3教育事務所）を実施した。</li> <li>関係部局や市町村と連携し、放課後子ども教室や放課後児童クラブ等の子どもの居場所づくりの取組を県内全域で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との連携のもと、家庭教育支援に対して共通の認識をもち、社会全体で家庭教育を支えていく気運を高めていく。</li> <li>学校、地域住民、地域団体、行政等の連携をさらに推進するため、地区別家庭教育支援連携会議及びモデル事業を全ての教育事務所において実施する。</li> </ul>

事業名	㊸ぐんまの家庭教育応援フォーラム
担当所属	教育委員会 生涯学習課・生涯学習センター
決算見込額	52千円

### <事業概要>

家庭教育支援実践者による講演や現在地域で活動している家庭教育支援チームの取組などを参考に、関係者が家庭教育支援への具体的な取組について考え、実際に活動するための契機とする。

### <実施状況>

- (1)開催日 11月17日  
 (2)参加者数 187人

事業名	㊸地区別家庭教育支援連携会議
担当所属	教育委員会 生涯学習課（各教育事務所）
決算見込額	426千円

<事業概要>

保護者、祖父母世代、学校、地域活動団体、事業者等の関係者が、家庭教育の重要性を再認識するとともに、各団体等の連携した取組を推進する。

<実施状況>

(1)開催日

中部 10月11日

西部 7月27日

吾妻 6月25日、7月5日・12日・18日、10月26日、12月5日

利根 6月29日

東部 10月10日

(2)参加者数 延べ425人

事業名	㊹【新規】地区別家庭教育支援連携モデル事業
担当所属	教育委員会 生涯学習課（各教育事務所）
決算見込額	426千円

<事業概要>

教育事務所がつなぎ役となり、市町村教育委員会、各団体等と連携して、家庭教育支援をテーマとした事業を実施することにより、各地区における家庭教育支援の体制を整備し各団体等の連携した取組の推進を図る。

<実施状況>

(1)開催日 西部 12月22日

利根 11月10日

東部 10月28日

(2)参加者数 延べ256人

事業名	㊺家庭教育支援担当者等研修会
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	0千円

<事業概要>

市町村及び教育事務所担当者等を対象に講演、協議等を行い、市町村における家庭教育支援施策の充実を図る。

<実施状況>

(1)開催日 6月22日

(2)参加者数 51人

事業名	㉔学校・家庭・地域連携協力推進事業（国庫補助事業）
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	19,676千円

<事業概要>

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。

<実施状況>

- (1)放課後子ども教室：23市町村・177教室（中核市を含む）
- (2)外部人材を活用した教育支援活動：9町村・15箇所
- (3)地域学校協働本部：5市町村8本部
- (4)地域未来塾：5市町村18教室（中核市を含む）
- (5)地域における家庭教育支援総合推進事業：2村2チーム

事業名	㉕家庭教育支援チームの支援
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	97千円

<事業概要>

地域で、保護者への寄り添い支援、つながり支援などを行う「家庭教育支援チーム」結成及び活動を支援する。

<実施状況>

- (1)県内登録数：6団体（5市、1村）
- (2)文部科学大臣表彰：1団体受賞

事業名	㉖放課後児童クラブ
担当所属	こども未来部 子育て・青少年課
決算見込額	1,404,610千円

<事業概要>

昼間家庭に保護者のいない小学生を放課後、土曜日、長期休暇期間等に預かり、適切な遊びや生活の場を与え、その健全な育成を図れるよう市町村が実施する事業を支援する。

<実施状況>

- (1)実施市町村 34市町村
- (2)クラブ数 501クラブ（支援の単位数：579単位）

事業名	㊸【新規】ぐんま子どもの居場所づくり応援県協議会
担当所属	こども未来部 子育て・青少年課
決算見込額	243千円

<事業概要>

子どもの貧困、親の孤立等、子どもや子育て世帯が抱える問題について、その深刻化を未然に防ぐことを目的に、子どもの居場所を活かしたセーフティネットの構築に向け、子ども支援に取り組む自治体や、関係団体等が課題を共有するとともに、必要な仕組みづくりのための協議を行う。

<実施状況>

- (1)開催日 9月18日
- (2)参加者数 23人

事業名	㊹地域食育推進連携促進事業
担当所属	健康福祉部 保健予防課
決算見込額	123千円

<事業概要>

県内を5ブロックに分け、各地域の食育に関わる多様な関係者が、地域の特性に応じた食育推進のための課題等について協議、検討を行う「地域食育推進ネットワーク会議」を開催する。

<実施状況>

中部・西部・吾妻・利根沼田・東部地域の5箇所、地域食育推進ネットワーク会議を6月に開催した。

事業名	㊺群馬県いきいきGカンパニー認証制度
担当所属	産業経済部 労働政策課
決算見込額	248千円

<事業概要>

育児・介護休業制度の利用促進や職場における女性の活躍推進、従業員の家庭教育等ワーク・ライフ・バランスの推進に先導的に取組を進めようとしている企業を認証することで、こうした取組を応援し、男性・女性を問わずすべての労働者が働きやすい職場環境づくりを推進するとともに企業の活性化を図り、県経済に活力を与える。

<実施状況>

- (1)ベーシック認証企業 799社
- (2)ゴールド認証企業 180社

〈参考：各施策にかかわる指標等〉

計画名	施策名	指標	数値(達成時期)	H30実績
ぐんま子育て・若者サポートビジョン2016	㊸ぐんまの家庭教育応援フォーラム	参加者数	250人(H28)	187人
ぐんま子育て・若者サポートビジョン2016	㊹家庭教育支援担当者等研修会	研修会参加者数(累計)	180人(H31)	累計118人(H30 51人)
群馬県食育推進計画(第3次) ぐんま子育て・若者サポートビジョン2016	㊺地域食育推進連携促進事業	地域食育推進ネットワーク体制の整備	5カ所(H31)	5カ所
群馬県産業振興基本計画 ぐんま子育て・若者サポートビジョン2016	㊻群馬県いきいきGカンパニー認証制度	認証取得事業所数	2,500事業所(H31)	979社

## 5 相談体制の充実等〈第15条関係〉

県の役割	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県は、家庭教育及び子育てに関する相談に応じるために、相談体制の整備及び充実、窓口の周知等、必要な施策を実施する。</li> </ul>	
主な実施内容	課題と今後の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに関する相談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる教育相談など、幼児期から高校まで各年代について保護者のニーズに応じた相談を実施した。</li> <li>福祉面からの支援を充実させるため、巡回型スクールソーシャルワーカーを各教育事務所に配置した。</li> <li>高校中退者や中学卒業後進路未決定者を対象とした学習相談や学習支援を、保護者への相談支援も含め実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者がより相談しやすくなるよう、広く一般県民に向けて周知するとともに、相談体制をさらに強化していく。</li> <li>子ども教育・子育て相談について、夜間・休日も含めた電話相談体制で、緊急性を要する相談に適切に対応していく。</li> </ul>

事業名	㊸児童生徒の心のケアシステム推進
担当所属	教育委員会 義務教育課
決算見込額	235,874千円

### <事業概要>

スクールカウンセラーを県内全公立小中学校に配置し、校内の教育相談体制の充実を図る。

### <実施状況>

県内全公立小中学校にスクールカウンセラーを配置（小学校306校、中学校161校）

事業名	㊹【新規】学びと家庭のサポート
担当所属	教育委員会 義務教育課
決算見込額	9,981千円

### <事業概要>

スクールソーシャルワーカーを各教育事務所に配置し、児童生徒が置かれている環境に働きかけて、主に福祉面からの支援を行う。

### <実施状況>

- (1) 各市町村教育委員会からの派遣要請に対応できる6名の派遣型スクールソーシャルワーカーを県内3教育事務所に配置
- (2) 36の指定中学校区を定期的に支援する11名の巡回型スクールソーシャルワーカーを県内すべての教育事務所に配置



事業名	⑩青少年自立・再学習支援事業
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	5,000千円

<事業概要>

不登校等、様々な悩みを抱える青少年や、いわゆる「ひきこもり」や「ニート」状態にある青少年及びそれらの保護者等を対象とする、相談活動及び体験活動を通じての自立支援を行う。

また、高校中退者等の再学習のための相談及び各種情報の収集・提供を行う。

<実施状況（H31.3.31現在）>

- (1) 相談等延べ件数 1,354件
- (2) 体験活動実施数 17人（延べ34件）
- (3) 合同相談会の開催 3回（延べ120人）

事業名	⑪学びを通じたステップアップ支援促進事業
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	3,113千円

<事業概要>

保護者への相談支援も含め、高校中退者や中学卒業後進路未決定者を対象に、高等学校卒業程度の学力を身に付けさせるための学習相談及び学習支援を行う。

<実施状況>

- (1) 学習相談
 

電話・メール	424件	
面談	88件	計 512件
- (2) 学習支援
 

学習支援日	計57日
参加実人数	14人（延べ193人）

事業名	⑫子ども教育・子育て相談
担当所属	教育委員会 総合教育センター
決算見込額	16,526千円

<事業概要>

学校・園の生活や学業、いじめや不登校、生活習慣や養育、発達の遅れや就園・就学など、乳幼児から高校生までの教育や子育てに関する相談に対応する。

<実施状況>

- (1) 電話相談 24時間
- (2) 来所相談
 

月曜日～金曜日	9:00～17:00
第2・第4土曜日	9:00～15:00
- (3) 相談件数
 

電話	2,858件
来所	625件

※相談件数は平成31年3月末現在  
 ※相談件数は延べ件数（問い合わせ・無言等を除く）

事業名	㊸家庭教育電話相談「よい子のダイヤル」
担当所属	教育委員会 生涯学習センター
決算見込額	2,142千円

<事業概要>

幼児期から高校生くらいの子どもをもつ保護者及び児童生徒の育児やしつけ、健康など家庭教育上生ずるいろいろな悩みや、相談者自身の生活上の悩みなどについて、電話による幅広い相談を行う。

<実施状況>

- (1)開設日時 火曜～土曜 10:30～18:30  
(2)相談件数 1,407件 (H31年3月末現在)

事業名	㊹こどもホットライン24
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	10,598千円

<事業概要>

18歳未満の子どもに関する電話相談。

<実施状況>

- (1)相談時間 24時間対応  
(2)相談件数 3,674件

事業名	㊺女性の健康支援事業
担当所属	こども未来部 児童福祉課
決算見込額	370千円

<事業概要>

育児不安のある保護者を対象に、保健福祉事務所において、医師等による「子育てこころの相談」や「産後うつの相談」を行う。

<実施状況>

県内5か所の保健福祉事務所において実施。

- (1)開催総回数 22回  
(2)相談利用件数 実人数27人  
延べ 30件

## 6 広報及び啓発<第16条関係>

県の役割	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県は、科学的知見に基づく家庭教育に関する情報の収集、整理、分析及び提供を行う。</li> <li>県は、保護者の役割及び社会全体で家庭教育を支援することの重要性等の啓発を行う。</li> </ul>	
主な実施内容	課題と今後の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ワクワク子育てトーク」のチラシ配布、家庭教育支援啓発リーフレットの作成及び配布により、県民に対して家庭教育支援に関する取組について周知を行った。</li> <li>子育て情報や青少年の健全育成情報等を提供する群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」の運営では、166万回を超える閲覧があった。</li> <li>県内の各市町村における家庭教育支援事業の実施状況に関する調査を実施し、結果を研修会等で提供した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>条例は、家庭教育支援の考え方の基礎になる部分であるので、今後もあらゆる機会を活用して周知し、企業、関係団体、県民の理解を一層深めていく。</li> <li>家庭教育支援に関する調査を実施し、大学等関係機関と連携し今後の施策に生かしていく。</li> </ul>

事業名	㊿ぐんまの子どものためのルールブック50 【再掲】
担当所属	教育委員会 総務課
決算見込額	1,465千円

### <事業概要>

公共心や思いやりを育むために、子どもが具体的に実行できるルールを50にまとめ、家庭・地域・学校での活用を促進する。

### <実施状況>

新入学児童等に、16,945部配付。

事業名	㊿ぐんまの家庭教育応援条例普及啓発
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	0千円

### <事業概要>

家庭教育支援条例策定の趣旨等について、市町村、各教育機関、保護者、事業所等にリーフレットを配布する等、広く周知し社会全体で家庭教育を支援する機運を醸成する。

### <実施状況>

(1)配布先 県教委主催事業の参加者及び各教育事務所

事業名	④⑧県教育番組制作放送
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	71,296千円

<事業概要>

学校・家庭・地域の連携を促進し、児童・生徒の健全育成を図るため、学校における取組のほか地域・企業・団体等による取組を紹介するための教育テレビ番組「はばたけ！ぐんまの子どもたち」を制作・放送する。

<実施状況>

(1)放送回数 (全40回(うち新規制作24回、総集編3回、再放送13回))

主に家庭や地域における取組を紹介した放送回

- ・9月15日放送「みんなで支えよう！地域の子ども」(平成29年度再放送)
- ・9月22日放送「地域に広がれ！青少年教育活動の輪」等

(2)放送時間：30分(土曜日8：00～8：30)

事業名	④⑨家庭教育支援普及・啓発リーフレット作成
担当所属	教育委員会 生涯学習課
決算見込額	98千円

<事業概要>

家庭教育支援に関する県内の取組を紹介するリーフレットを作成し、市町村、各教育機関、保護者、事業所等、広く周知して社会全体で家庭教育を支援する機運を醸成する。

<実施状況>

(1)配布先 県教委主催事業の参加者及び各教育事務所

(2)作成部数 15,000部

事業名	⑤⑩群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」
担当所属	こども未来部 こども政策課
決算見込額	612千円

<事業概要>

結婚支援や子育て情報、青少年の健全育成など県が有する情報を発信する。

<実施状況>

サイト閲覧数 1,669,632件

事業名	⑤【継承】ぐんま子育て応援メッセージ大賞【再掲】
担当所属	こども未来部 こども政策課
決算見込額	859千円

<事業概要>

小学生以上の子ども及び大人・企業等を対象として、子育てを頑張る人に向けた感謝やねぎらいの気持ちを込めたショートメッセージを募集するコンクールを実施する。

<実施状況>

- (1)応募作品数 「いつもありがとう」の部（子ども対象）2, 160点、「一緒にがんばろう」の部（大人・企業等対象）58点。
- (2)入賞作品18点を選出し、県ホームページ等で公表したほか、新しく作成したぐーちよきパスポートとともにメッセージカードとして県内の子育て家庭に配布。

事業名	⑥「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール【再掲】
担当所属	こども未来部 子育て・青少年課
決算見込額	245千円

<事業概要>

毎月第1土曜日を「少年の日」、第1日曜日を「家庭の日」と定め、青少年の健全育成のための県民運動を推進する。

<実施状況>

- (1)絵画・ポスターの部と標語の部の募集をし、絵画・ポスターの部 1, 920点、標語の部11, 222点の計13, 142点の応募があった。
- (2)12月18日～25日まで県庁県民ホール1階南側で作品展示を行い、「少年の日」「家庭の日」の普及啓発を行った。

事業名	⑦ぐんま子育て応援サイト「子育てネット」
担当所属	こども未来部 子育て・青少年課
決算見込額	1, 139千円

<事業概要>

子育て支援に関して必要な情報を検索できる子育て応援サイトを運営する。

<実施状況>

子育て支援に関する情報の更新を適宜実施

〈参考：各施策にかかわる指標等〉

計画名	施策名	指標	数値(達成時期)	H 3 0 実績
ぐんま子育て・ 若者サポートヴ イジョン2016	㊿群馬県結婚・ 子育て応援ポー タルサイト「ぐ んまスマイルラ イフ」	ポータルサイト年間アクセ ス件数	300,000件(H31)	1,669,632件

# ぐんまの家庭教育応援条例

子どもは豊かな個性と限りない可能性を持ってこの世に生をうける。その個性と才能は愛情あふれる家庭で生まれ、磨かれていく。

家庭教育は全ての教育の出発点であり、子どもに基本的な生活習慣、自立心、礼儀、社会のルール等を身につけさせるとともに、心身の調和のとれた人格の完成を目指すためにも極めて重要である。

群馬県は、古くから養蚕、製糸、織物業等が盛んであり、これらに関連する文化財が、日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」として国に認定されている。群馬県では絹産業などで広く活躍する女性をたたえ「かかあ天下」と呼び、「からっ風」とともに上州の名物となっている。

このような風土の中で、群馬の子どもたちは、一生懸命に働く親や家族の姿を見ながら、親や祖父母を敬うこと、働くことの尊さを学び、たくましく育ってきた。

いつの時代においても、子どもを大切に育てることは、家庭の責務であるが、現代では少子化、核家族化などの家族形態の多様化、地域とのつながりの希薄化などに加え、経済格差による貧困問題等、家庭を取り巻く環境は大きく変化している。

更に、子育てに対する不安や問題を抱え、孤立化する保護者も増加しており、その結果、過保護や過干渉、放任や虐待など、家庭の教育力の低下が指摘されている。

これまで、行政、学校等において、家庭教育の支援のための取組が行われてきた。家庭の教育力向上のためには、ワークライフバランスへの配慮等も含め、更に充実した取組が求められており、各家庭が家庭教育の意義を改めて認識し、責任を自覚するとともに、家庭を取り巻く学校等、地域住民、地域活動団体、事業者、行政その他関係者が、各家庭の自主性を尊重しつつ、連携を図り家庭教育を支えていくことが必要である。

ここに、各家庭が主体的に家庭教育に取り組むための環境整備に努めるとともに、家庭教育を社会全体で応援し、地域の宝である子どもたちが、将来に希望を持ち健やかに成長することをともに喜びあえる群馬県を目指して、この条例を制定する。

(目的)

第一条 この条例は、家庭教育の支援についての基本理念及びその実現を図るために必要な事項を定め、家庭教育への支援策を総合的に推進することにより、保護者が親として学び成長していくこと及び子どもが将来親になることに備え学ぶことを促すとともに、子どもの健全な成長のために必要な生活習慣の確立、自立心の育成及び心身の調和

のとれた発達を図り、もって群馬の子どもたちが生涯にわたって、幸福で豊かな生活を営めることを目的とする。

(定義)

第二条 この条例において「家庭教育」とは、家庭において保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、子どもを現に監護するものをいう。以下同じ。）がその子どもに対して行う教育をいう。

2 この条例において「子ども」とは、おおむね十八歳以下の者をいう。

3 この条例において「学校等」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校（大学を除く。）、児童福祉法（昭和二十二年法律第六十四号）第三十九条第一項に規定する保育所及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）第二条第六項に規定する認定こども園をいう。

4 この条例において「地域活動団体」とは、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）第十条に規定する社会教育関係団体、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百六十条の二第一項に規定する地縁による団体その他の団体で地域的な活動を行うものをいう。

(基本理念)

第三条 家庭教育の支援は、保護者がその子どもの教育について第一義的責任を有するという認識の下に、学校等、地域住民、地域活動団体、事業者、行政その他社会の全ての構成員が、家庭の自主性を尊重しつつ、それぞれの役割を果たすとともに、相互に協力しながら、一体的に取り組むことを旨とする。

2 家庭教育の支援は、一人一人の子どものかげがえのない個性を尊重するとともに、多様な家庭環境に配慮して行わなければならない。

(県の責務)

第四条 県は、前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、家庭教育の支援を目的とした体制を整備するとともに、家庭教育を支援するための施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

2 県は、前項の規定により施策を策定し、及び実施しようとするときは、保護者をはじめ、市町村、学校等、地域住民、地域活動団体、事業者その他の関係者と連携して取り組むとともに、保護者及び子どもの障がいの有無、保護者の経済状況その他の家庭の状況に配慮するものとする。

(市町村との連携)

第五条 県は、市町村が家庭教育を支援するための施策を策定し、又は実施しようとするときは、市町村に対して情報の提供、助言その他の必要な支援を行うものとする。

(保護者の役割)

第六条 保護者は、子どもに愛情をもって接するとともに、幼少期において親子間での安定した愛着の形成が図られるよう努めるものとする。

2 保護者は、一人一人の子どもの個性を尊重し、子どもの健全な成長のために必要な生活習慣の確立、自立心の育成及び心身の調和のとれた発達を図るとともに、自らも成長していくよう努めるものとする。

(祖父母の世代の役割)

第七条 祖父母の世代は、子育てに関する知恵や経験を生かし、家庭教育に対する支援や協力を行うよう努めるものとする。

(学校等の役割)

第八条 学校等は、基本理念にのっとり、保護者、地域住民等と連携して、子どもの健全な成長のために必要な生活習慣の確立、自立心の育成及び心身の調和のとれた発達を図り、子どもたち一人一人が多様な個性や能力を発揮できるよう育むことに努めるものとする。

2 学校等は、県及び市町村が実施する家庭教育を支援するための施策に協力するよう努めるものとする。

(地域住民等の役割)

第九条 地域住民及び地域活動団体は、基本理念にのっとり、保護者等と連携し、地域の歴史、伝統、文化、スポーツ等の行事、学習支援活動等を通じて、子どもの健全な育成を図るとともに、家庭教育を支援するための取組を積極的に行うよう努めるものとする。

2 地域住民及び地域活動団体は、県及び市町村が実施する家庭教育を支援するための施策に協力するよう努めるものとする。

(事業者の役割)

第十条 事業者は、家庭教育における保護者の役割の重要性に鑑み、基本理念にのっとり、従業員の仕事と家庭生活の両立が図られるよう必要な就業環境の整備に努めるものとする。

2 事業者は、県及び市町村が実施する家庭教育を支援するための施策に協力するよう努めるものとする。

(親としての学びの支援)

第十一条 県は、親としての学び（保護者が、子どもの発達段階に応じて大切にしたい家庭教育の内容、子育ての知識その他の親として成長するため

に必要なことを学ぶことをいう。次項において同じ。）を支援するため、その学びの方法の情報収集、研究及び普及を図るものとする。

2 県は、親としての学びの学習機会を提供するとともに、学校等、地域住民、地域活動団体その他の関係者の取組に対し支援するものとする。

(親になるための学びの支援)

第十二条 県は、親になるための学び（子どもが、家庭の役割、子育ての喜びや大切さその他の将来親になるために必要なことを学ぶことをいう。次項において同じ。）を支援するため、その学びの方法の情報収集、研究及び普及を図るものとする。

2 県は、親になるための学びの学習機会を提供するとともに、学校等、地域住民、地域活動団体その他の関係者の取組に対し支援するものとする。

(人材養成等)

第十三条 県は、大学等、専門的知識を有する関係機関と連携を図り、家庭教育の支援を行う人材の養成及び資質の向上に努めるとともに、家庭教育の支援を行う関係者相互の連携を推進するものとする。

(連携した活動の促進)

第十四条 県は、保護者をはじめ、学校等、地域住民、地域活動団体、事業者その他の関係者が相互に連携して取り組む家庭教育を支援するための活動の促進を図るものとする。

(相談体制の充実等)

第十五条 県は、家庭教育及び子育てに関する相談に応ずるため、相談体制の整備及び充実、相談窓口の周知その他の必要な施策を実施するものとする。

(広報及び啓発)

第十六条 県は、科学的知見に基づく家庭教育に関する情報の収集、整理、分析及び提供を行うものとする。

2 県は、家庭教育における保護者の果たす役割及び社会の全ての構成員が家庭教育を支援することの重要性について、県民の理解を深め、かつ、意識を高めるための啓発を行うものとする。

(財政上の措置)

第十七条 県は、家庭教育を支援するための施策を推進するため、必要な財政上の措置を講ずるものとする。

(年次報告)

第十八条 知事は、毎年度、家庭教育を支援するための施策の実施状況を取りまとめ、議会に報告するとともに、公表するものとする。

附 則

この条例は、平成二十八年四月一日から施行する。



